

N

東京国立近代美術館

フィルムセンター 大ホール (2階)

F

生誕 100 年 映画監督 加藤泰

Tai Kato Retrospective at His Centenary

C

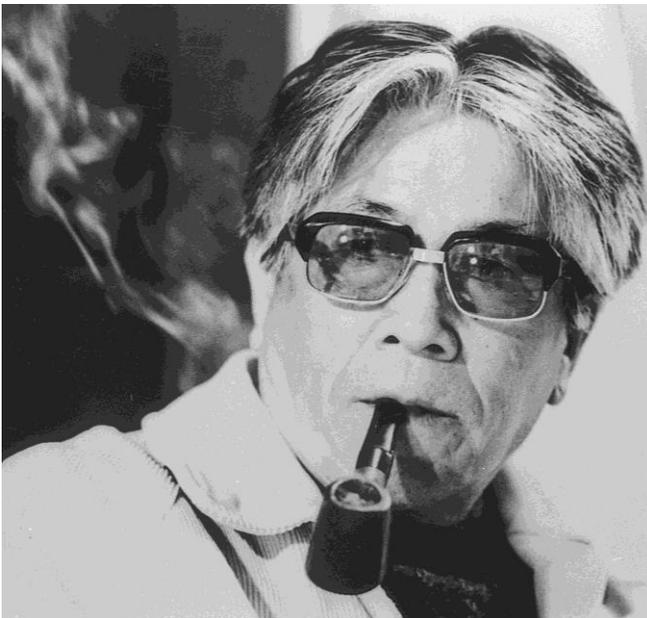
2016年7月12日(火) - 9月4日(日)

平素よりお世話になっております。今夏フィルムセンターでは、7月12日(火)から約2カ月にわたって映画監督・加藤泰の大回顧特集を開催いたします。

今年生誕100年を迎える加藤泰(1916-1985、本名・加藤泰通)は、社会から外れた男や女が情熱をぶつけ、権威に反抗し、愛を貫く姿を、大胆な視覚的演出や鋭いアクション描写を通して描き続け、生涯で4本の短篇映画と42本の長篇映画、1本のテレビ作品を監督として残しました。それらは今もなお輝き続け、われわれを魅了します。

本特集は、加藤が監督した計47本の作品のうち、**短篇2本・長篇41本・テレビ1本の計44本を42プログラムに組んだ史上最大規模の回顧上映**となります。戦中期の文化映画から、宝プロ時代の娯楽チャンバラ活劇、東映京都時代の充実した代表作の数々、“安藤昇三部作”やテレビ演出作品、そして1970年代以降の大作まで、その足跡をたどることができる絶好の機会です。

ぜひ、貴媒体にて本特集をご紹介しますようよろしくお願い申し上げます。



#### ■加藤泰 (1916-1985)

1916年神戸生まれ。叔父である山中貞雄のつてにより、1937年、東宝砧撮影所に助監督として入社。1941年、理研科学映画に呼ばれ、文化映画で監督デビュー。1944年には満洲映画協会に移り、同様に文化映画を撮り、同地で敗戦を迎える。戦後に帰国した後、1947年に入社した大映京都撮影所を経て、1950年に宝プロダクションへ移り、翌1951年に念願の長篇劇映画デビューを飾る。1956年、自身四度目の助監督として東映京都撮影所に入社し、翌1957年に監督復帰、以後同撮影所を中心に個性的な時代劇映画を撮り続ける。ロー・ポジションや長廻し、ワイドスクリーンを活用した特徴的な演出で知られ、激しいパッションと力強いアクションに満ちたその作風は、今も多くのファンを生み続けている。

【企画名】生誕100年 映画監督 加藤泰

【会期】2016年7月12日(火) - 9月4日(日)

【休館日】月曜日

【会場】東京国立近代美術館フィルムセンター 大ホール (2階)

【料金】一般520円／高校・大学生・シニア310円／小・中学生100円／  
障害者(付添者は原則1名まで)、キャンパスメンバーズは無料

【HP】[http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/katotai-2016-7\\_8/](http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/katotai-2016-7_8/)

◆加藤泰監督作品 計 47 本 \*太字が本企画での上映作品です

- 「潜水艦」1941年（理研科学映画）  
「泡」1943年（理研科学映画）  
「嵐は怖い」1944年（満州映画協会）  
「軍官学校」1944年（満州映画協会）  
「剣難女難 第一部 女心流転の巻」1951年（宝プロ）  
「剣難女難 第二部 剣光流星の巻」1951年（宝プロ）  
「清水港は鬼より怖い」1952年（宝プロ）  
「ひよどり草紙」1952年（宝プロ）  
「忍術児雷也」1955年（新東宝）  
「逆襲大蛇丸」1955年（新東宝）  
「恋染め浪人」1957年（東映京都）  
「源氏九郎颯爽記 濡れ髪二刀流」1957年（東映京都）  
「緋ざくら大名」1958年（東映京都）  
「源氏九郎颯爽記 白狐二刀流」1958年（東映京都）  
「風と女と旅鴉」1958年（東映京都）  
「浪人八景」1958年（東映京都）  
「紅顔の密使」1959年（東映京都）  
「大江戸の侠児」1960年（東映京都）  
「あやめ笠 喧嘩街道」1960年（第二東映京都）  
「炎の城」1960年（東映京都）  
「朝霧街道」1961年（第二東映京都）  
「怪談 お岩の亡霊」1961年（東映京都）  
「臉の母」1962年（東映京都）  
「丹下左膳 乾雲坤龍の巻」1962年（東映京都）  
「真田風雲録」1963年（東映京都）



潜水艦



剣難女難 第一部 女心流転の巻

- 「風の武士」1964年（東映京都）  
「車夫遊侠伝 喧嘩辰」1964年（東映京都）  
「幕末残酷物語」1964年（東映京都）  
「明治侠客伝 三代目襲名」1965年（東映京都）  
「杵掛時次郎 遊侠一匹」1966年（東映京都）  
「骨までしゃぶる」1966年（東映京都）  
「男の顔は履歴書」1966年（松竹大船）  
「阿片台地 地獄部隊突撃せよ」1966年（ゴールデンぷろ）  
「懲役十八年」1967年（東映京都）  
「剣 縄張」1967年（C.A.L）  
「みな殺しの霊歌」1968年（松竹大船）  
「緋牡丹博徒 花札勝負」1969年（東映京都）  
「緋牡丹博徒 お竜参上」1970年（東映京都）  
「緋牡丹博徒 お命戴きます」1971年（東映京都）  
「昭和おんな博徒」1972年（東映京都）  
「人生劇場」1972年（松竹大船）  
「花と龍」1973年（松竹大船）  
「宮本武蔵」1973年（松竹大船）  
「日本侠花伝」1973年（東宝）  
「江戸川乱歩の陰獣」1977年（松竹）  
「炎のごとく」1981年（大和新社）  
「ざ・鬼太鼓座」1982年（松竹＝朝日放送＝デン事務所）

計 47 本



緋牡丹博徒 お命戴きます



炎のごとく

『羅生門』[予告篇] 1950年（大映京都）

※大映京都の助監督時代に加藤が作ったとされる予告篇。

【本企画に関するお問い合わせ】

東京国立近代美術館フィルムセンター 事業推進室：白鳥・大澤・富田

電話：03-3561-0823 FAX：03-3561-0830 E-mail：nfc-pr@momat.go.jp 〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6